

賑わいのある川を目指して、3.3万尾のアユ標識放流！

2023. 4. 19 栃木県水産試験場

4月16日に那珂川（黒磯地区）で、釣り人発のアユ標識放流が実施されました。全国有数の漁獲量を誇る那珂川ですが、近年、漁獲不振が続いています。川にいるアユの数（天然遡上アユ+放流アユ）を増やすことが必要ですが、漁業協同組合の収入が減少する一方で、餌代や電気代の高騰により放流種苗の値上がりが続いており、放流量を増やすことは困難です。

そこで、今までよりも早い時期に、今までよりも小型の種苗を放流すること（＝早期小型種苗放流）を推奨しています。例えば、県内の放流サイズの最小規格は5gですが、これを4gにできるならば、放流尾数は25%増加します。しかし、実施例が少ないため、5g未満での放流について、適切な放流時期やサイズを判断するためのデータは限られています。

今回は、釣り人団体（鮎追い人）や地元釣具店（平山釣具）が中心となって、有志からの寄付で種苗を購入し、釣り人、漁協、地域住民が協力して標識作業を行いました。当日は、約30名の方に御協力頂き、平均1.51gのアユ種苗の脂ビレを切除して標識し、那珂川に3.3万尾を放流しました。標識したことで、早期小型種苗の成長や移動、釣れ具合への貢献を確かめることができます。

組合員の減少によって、漁協だけの活動が難しくなっていますが、釣り人や地域住民との協力によって、データに基づく効果的な漁場管理が実現され、賑わいのある川づくり、地域の活性化（那珂川のアユ釣りによる経済波及効果は12億円と推定されています）につながっていくことが期待されます。

※早期小型種苗放流については、水産庁発行のマニュアルもご覧ください
(<https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-22.pdf>)



標識作業のようす

子供から大人まで、たくさんの方が標識作業に参加しました。



標識作業のようす

脂ビレをはさみでカットして標識しました。



放流のようす

標識したアユを那珂川へ放流しました。



標識したアユ種苗

平均サイズは 1.51g でした。



カワウ避けの黒テグス

放流場所には、カワウによる食害を防ぐために黒テグスを漁協で設置しました。